

この本と私

読むことで、気付くこと、
書くことで、判ることがある

「品格ある日本人」 名越眞之著

このところのニュースでは社会の道徳が崩壊したとしか思えないものが多い。親殺し、子殺し、学校でのいじめによる少年の自殺、詐欺まがいの事業など。本来、日本人は徳性の高い民族なのに。この本は、日本人の美徳を、「天職に生きる」「弱者へのいたわり」「リーダーの器」「先生と生徒」「魂の交流」ほか11のジャンルで、心温まる出来事をつづっています。印象に残ったエピソードを紹介します。元競輪選手の山崎勲さんは、脳性麻痺の息子 昇君を持ち、レースで全国を回るうち、同じような子供が全国2万人いるのを知ります。地元の高知新聞によびかけ、同じ苦しみを持つ親で「心身障害児を守る会」を結成。専門家の話から、子供を家に閉じこめるのが一番よくないと、空き家だった妻の実家を解放して、集団生活が出来る施設「希望の家」をつくります。施設の運営資金にレースの賞金をつぎ込みました。そんな中、昇君がわずか3歳7ヶ月、肺炎で急死。山崎は、医者や看護師を置いた本格的な施設だったら、こんな事にならなかったと呆然となりました。そんな折、NHKの「ある人生」というドキュメンタリー番組で、山崎の活動が放送され、全国から、競輪選手仲間からも、競輪場でもカンパが寄せられました。この寄付金と日本自転車振興会、高知県の助成で、本格的な施設「土佐希望の家」が南国市に出来ました。子を持つ親の強さは、社会の垣根を越え、人を動かす。この事実に感動しました。

F. M.

PHP研究所

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞